



特
集

高知龍馬空港

高知県の穀物地帯と呼ばれる香長平野に高知龍馬空港があります。

昨年11月15日、高知空港は坂本龍馬の誕生日に「高知龍馬空港」の愛称が決定し、今年の2月には、再拡張工事が完了して2,500mの滑走路として使用開始となりました。

こうして新たな出発をした私たちのまちの空の玄関「高知龍馬空港」を広報委員会で取材してきました。

高知空港と高知龍馬空港

一口に空港といつてもその業務は多種多様で、飛行機を運航する航空会社、ターミナルビル（出発ロビー・待合所・各店舗など）を管理する高知空港ビル、滑走路や管制塔を管理する国土交通省の高知空港事務所など、いくつもの関係機関によって成り立っています。

「高知龍馬空港」は県内の経済団体などの方々が発起人となり、6万4千人分の署名を集め、県に要請。同年8月橋本大二郎高知県知事が正式決定・発表しました。海外では、ジョン・F・ケネディ空港やシャルル・ド・ゴール空港、ミケランジェロ空港など個人名がついた空港が正式名称・愛称に関わらず存在しています。高知龍馬空港は日本で初の人名空港です。「空港関係者からの問い合わせもあり、大変有名になりました」と高知空港事務所の梅川久則空港長は話します。

「高知龍馬空港」は旅客機

内やターミナルビル内のアナウンスなどで聞くことができますが、この名称はあくまで愛称。国の機関である高知空港事務所では、今でも正式名称の「高知空港」のままなのです。

高知から全国・世界へ羽ばたく

愛称も決定し、滑走路も延長されたことでいよいよチャーター機で直接海外へ羽ばたくことも可能になり、今後は利便性の向上と経済効果が期待されます。

しかし一方で、他の交通機関との競争もあり「今後は人だけでなく、東京都の排ガス規制に伴う大型トラックの代替えとして、地場産品を空輸する計画など、これまでにない発想が必要になるでしょう」と航空会社関係者。高知県の発展につなげるためにも、三位一体（官・航空会社・県民）で航空機の活用方法を考えていく必要があります。



飛行機の安全性について説明する梅川空港長

愛称決定に滑走路2500m化 高知の「空の玄関」が元氣です。



南海大地震後の
救援物資緊急輸送
（昭和21年）

昭和19年（1944）3月
旧日本海軍高知空港基地として建設

昭和29年（1954）10月
準定期航空路線が開設
（極東航空 高知〜大阪間）

昭和30年（1955）7月
日章飛行場に旅客待合所新設

昭和31年（1956）6月
極東航空高知〜大阪線にスチ
ユワーデスを乗務させる

昭和33年（1958）2月
航空整備法による第2種空港
指定「高知空港」と呼称。

旧運輸大臣所管に指定。管制
塔が完成する

昭和35年（1960）4月
滑走路1千200m使用開始

昭和36年（1961）10月
滑走路300m延長完了

昭和45年（1970）6月
ハイジャック対策として空港
警備派出所を設置

昭和61年（1986）2月
滑走路2千m使用開始

平成15年（2003）4月
滑走路2千500m使用開始

はりまや橋～空港間に無料送迎
専用バスが運行（昭和36年頃）



空港改修前の旅客待合所
（昭和33年頃）



空港の沿革

*写真資料：南国市制30周年
記念写真集レトロ南国より